

第3回岩手県総合計画審議会 若者・女性部会

日時 令和8年5月27日（水）10:00～12:00
（オンライン開催）

次 第

1 開会

2 議事

(1)意見交換（テーマ：希望が実現できる社会について）

3 その他

4 閉会

若者・女性部会委員

(敬称略・五十音順)

(R8. 4. 1～)

氏名	所属等	備考
牛崎 志緒	ジョブカフェいわて	
西條 匡杜	地域志向型インターンシップネットワーク in いわて	
櫻井 陽	一般社団法人いわて地域おこし協力隊ネットワーク	欠席
佐藤 柊平	一般社団法人いわて圏	
藤 瑠杏	岩手わかすフェス実行委員会	欠席
山影 峻矢	manorda いわて株式会社	
山屋 理恵	岩手県男女共同参画センター	
吉田 知世	岩手わかすフェス実行委員会	

若者・女性部会 及び審議等の進め方について

1 若者・女性部会について

■ 設置の目的

若者や女性の視点から本県の現状や課題、今後の取組の基本的な方向性等について御議論をいただき、得られた御意見などを次期アクションプラン、地方版総合戦略等の策定及びその推進に生かしていくこと。

■ 構成

別紙名簿のとおり。

■ 今後の予定

	議題・テーマ（方針）	開催時期
第1回（終了）	・ 地方創生10年の成果と課題	令和7年12月22日
第2回（終了）	・ 一人ひとりの希望の実現	令和8年5月15日
第3回（今回）	・ 希望が実現できる社会	令和8年5月27日
第4回	・ まとめ	令和8年6月18日

※ 部会は公開で開催する。また、各回の議事要旨等も公表する。

2 審議等の進め方について

■ 議事(1) 意見交換（テーマ：希望が実現できる社会について）

- ・ 初めに事務局から前回の意見の振り返りや今回の議論の視点等について説明します。
その後、委員の皆様からテーマに沿った御意見をいただきます。

■ その他

- ・ その他、御意見などがありましたら御発言願います。

【第3回】意見交換のテーマ

希望が実現できる社会について

目次

1	前回（第2回）の意見整理	8
2	今回（第3回）の議論の視点	11

① 希望の後押し

① 希望の後押し ② つながりの拡大 ③ 変化に適応するアプローチ

可能性の拡大

- ・ 地元には「やりたい仕事がない」という認識が**流出要因**になっており、逆に「岩手でもできる」と思えば、**岩手が選択肢**として残る。
- ・ 高校・大学の段階で**外部と接点（大人・企業）**を持つことが重要であり、**視野を広げる機会**がその後の**進路選択**に大きく影響している。
- ・ **起業は最終形**であり、その**前段に挑戦機会、活動経験**が必要。
- ・ **地域活動やプロジェクト**への参加などから、徐々に**若者の挑戦**が生まれてきている。

安心

- ・ **若者**は奨学金負担や低賃金などにより、既に**経済的に厳しい状況**にあり、長期的なライフプランを描きにくく、「**支援する側**」ではなく「**支援される側**」に移行している。
- ・ 結婚・出産・キャリア**選択の前提**として「**将来不安**」が強く存在し、「やりたいこと」よりも「**失敗しない選択**」が優先され、「**希望はあるが、行動できない**」という思考になっている。
- ・ 一度失敗すると**立て直しが効かない**という感覚が、**挑戦そのものを抑制**している要因になっている。
- ・ **挑戦やチャレンジの前に、まずは安心して活動できる環境**が必要。

② つながりの拡大

- ・ 高校卒業の段階から継続的に地域の情報と接触できる仕組み（LINE等）が必要。
- ・ 就活の中で、岩手の企業はなかなか検索で引っかからず、大手企業の情報に埋もれてしまう。
- ・ 県外に居ても地域と関われるボランティア・アルバイト・プロジェクトや、地元企業と接点を持つ設計が必要。
- ・ 県外に出ると、岩手の情報に触れる機会が少なく、地元に戻るかを考える際の材料が不足。
- ・ 自分から探しに行かないと情報が得られないため、岩手の情報を知らないまま、選択肢から外れている状態はもったいない。
- ・ 関わり方として定住だけに限らず、関係人口など多様な関わり方が認められる地域であってほしい。

③ 変化に適応するアプローチ

- ・ 若者は県外に出るのが自然で、戻すことを前提にしすぎると、**現実とズレ**が生じるため、**多様な関わり方**が必要。
- ・ 「産むこと」「戻ること」を求められる構造になってしまうと**違和感**。
- ・ 関係人口なども**担い手の一つ**として捉えていく必要がある。
- ・ フルタイム前提ではなく、副業なども含めた**柔軟な働き方**について、**企業側も受け入れていく必要**がある。
- ・ 都市は楽しいというより「**生きやすい**」から選ばれており、**現状のままだと地域に戻る理由が弱くなる**。
- ・ 県外転出者（特に女性）は地元に対して、**監視されているような感覚**、**過干渉**、**世間の狭さ**を感じており、こうした空気が「**戻りにくさ**」を生んでいる。
- ・ **ジェンダーや役割意識**が、**希望を抑制**しており、**アンコンシャス・バイアス**は依然として強い。

2 今回（第3回）の議論の視点

■ これまでの意見・考え方を整理

- ・ 前回の議論では、「一人ひとりの希望の実現」をテーマに、施策の方向性に関する3つの観点を中心に多様な意見が出された。
① 希望の後押し ② つながりの拡大 ③ 変化に適応するアプローチ
- ・ また、希望を後押しするには、**可能性の拡大**と**安心**の2つの側面がどちらも充実していることが必要であるとの意見があった。
 - 「希望の後押し」の重要な要素として、
「つながりの拡大」と「変化に適応するアプローチ」があると捉え、その考え方を整理（別紙1）



若者・女性の希望を後押しするために、2つの側面（**可能性の拡大** / **安心**）から「どのような社会であれば希望を後押しできるか」という視点を中心に議論を進める。

